

慶蔵院寺報

公孫樹

2021年8月発行

第115号

浄土宗慶蔵院

伊勢市小俣町元町 1211

TEL 0596 (22) 3726



慶蔵院の高塀と東門入口 西里定一 画

お盆を涼しく

高塀と東門が完成し、落慶法要が行われてから早くも一年が経過しました。当時、病床にあって、「心残りは伊勢湾台風で飛ばされてしまった後、そのままになってしまっている高塀の瓦を復元したいことだ」という母親の言葉から始まった建設。一年たって徐々に境内の景観にもなじんできてくれたように見えます。

おかげさまで母親は元気を回復しました。三月にケーブルテレビで報道された「年寄万歳」の映像にいただいた反響、また公孫樹に母親が書いてくれている「豆知識」への感想や励ましのお言葉が励みとなって、ますます元気に暮らさせていただいております。ありがとうございます。

「…「豆知識」今回も興味深く読ませていただきました。《夏椿》私も好きな花で家を建てた時庭に植え何年も楽しみましたが害虫のためか枯れてしまいました。一日花ですが白く清楚な花で懐かしく思い出されました。次回も今から楽しみます…」

このように絵ハガキで毎月、公孫樹が届くとすぐに感想を送って下さる方もあります。本当にありがたいお心遣いに、心よりお礼申し上げます。

母親は、私たちが六時々の勤行を務める間に、朝刊の隅々にまで目を通すことを日課としています。「てらこや塾」の絵画の課外活動にも顔を出して「猫の絵」「紫陽花」「人の顔」の絵も描きました。私が購入してきた森村誠一「老いる意味」、畑中章宏「廃仏毀釈」も、ちょっと借りるわ…と私より先に読みきってしまいました。

「本堂は暑い。お盆が大変だ。私がつからクーラーを設置しよう。お参りくださる人がかわいそう…」と言い出してくれたおかげで、七月中旬に工事をしてもらい、本堂にクーラーが付きました。今年のお施餓鬼は、涼しくお参りいただけます。コロナ禍のなかではありますが、どうぞ皆様お参り下さい。

8月の行事予定



1日(日)～8日(日)	初盆参り	日時を申し込んでください
9日(月)～14日(土)	棚経参り	日程表をご覧ください
15日(日)	盆施餓鬼塔婆回向	午前9時～初盆のお家の 塔婆回向 午前10時～初盆家以外の 塔婆回向
24日(火)	地藏盆・ 初盆精霊送り	初盆のお家の皆様 午後6時～ 本堂にて法要 午後7時～ 地藏講・男性詠唱隊の皆様 による御詠歌とともに境内に て浄焚
予約があれば水曜日	キサンシングボウ ルヒーリング	要望に応じて30分～60分

8月の行事お休みのお知らせ

写経・映画会・念仏会・読経会・男性詠唱隊・戦没者慰霊・英語サロン・茶道教室・健康教室はお休みにさせていただきます。

涅槃図の修復 その4



涅槃図が収められていた木箱は、深い箱型になっている蓋のついた頑丈なもので、色はあせていたものの、ベンガラがほどこされたものでした。ベンガラとはインドのベンガル地方産の赤い色をした顔料です。この赤い顔料の普及が涅槃図の模写・複製の地方への拡大と機を一にしてきたのではないのでしょうか。

伊勢には、寛文一〇年(一六七〇)の山田大火以前の寛文六年(一六七〇)には三七一あった。…略…しかし明治二年(一八八九)には、宇治と山田をあわせて一〇九の寺が廃寺に追い込まれています。さらにこの年、明治天皇の初めての伊勢神宮行幸が計画されると、廃仏毀釈はさらに徹底されていき、昭和初年には二四か寺まで激減しています。《畑中章宏「廃仏毀釈」より》

慶蔵院の本堂の屋根裏でこの時代の変遷を見続けてきたのが涅槃図とともに発見された「六字名号佛」です。お盆にお参りいただいた皆様にはお会いいただけるといって、お盆をこえる条幅の掛け軸です。ここに掛けられていたと思える場所に打たれている古釘に掛けるとピタリと修まりました。立ち姿の阿弥陀様のお衣が南無阿弥陀仏の一字一字の文字で表現されており、お顔とおみ足と台座に薄い色付けがほどこされています。

私たちが南無阿弥陀仏と称えるとき、阿弥陀様は称える者と一体となって、私たちの身と心の中より私たちを導き育て救い取る…と示してくださっているのが六字名号佛だと思えます。



浄土宗新聞を無料でお渡しします！！

8月号読みどころ

8ページの「古典から見る《この世》《あの世》の情景」から…。

1677年に刊行された「諸国百物語」にある怪談が四つ紹介されています。これらの話は、アラビアンナイトのように、数人が集まって、交代で百の怪談を語り合い、百を語り終わると本当に化け物がでてくるといふ庶民の楽しみをまとめたものです。

読み終わってみて、著者の大角修氏も語っておられますが、江戸時代の怪談には、日本人の死生観や倫理観が説かれており、単に不気味でぞっとするような話だけで終わっていないのです。

百物語を通して、江戸時代の人々の「浮かばれない霊を供養した話、善悪の因果の話」などに触れると、現代人は、どこか人生感が希薄になっているのではないかと感じてきます。なぜそうなってきたのでしょうか…思いめぐらせてみたいものです。



棚経についてのお願い

寺世話人さん五役と検討させていただき、今年も東京在住の副住職 信也には、お盆に帰省しないようにと伝えました。二人で分担して行っていた9日～14日のお檀家さんの棚経は、今年も一人で行うこととなります。寺世話人さんが、午前・午後、交代して車の運転をして助けてくださることになりました。日程表には詳細な予定時刻は書いてありません。一人でするので今年も時間がかかると思います。申し訳ございませんがご理解よろしくお願い致します。

さらにまた、下小侯の棚経は、住職一人で歩いて回らせていただきますので、さらに時間がかかってしまうとおもわれます。午前、午後とだけ決めてあるだけです。道順は例年通りです。よろしくご協力お願いいたします。

なお、コロナの関係上、他との接触をさけるため、棚経を希望されないお家の方はご一報ください。

(日程表をご覧になり、ご都合の悪い方はご連絡ください。)

棚経の僧を送って独り待つ

(「知恩」誌八月号「柳壇」に掲載)

奥田悦生



初盆のお家の方へ

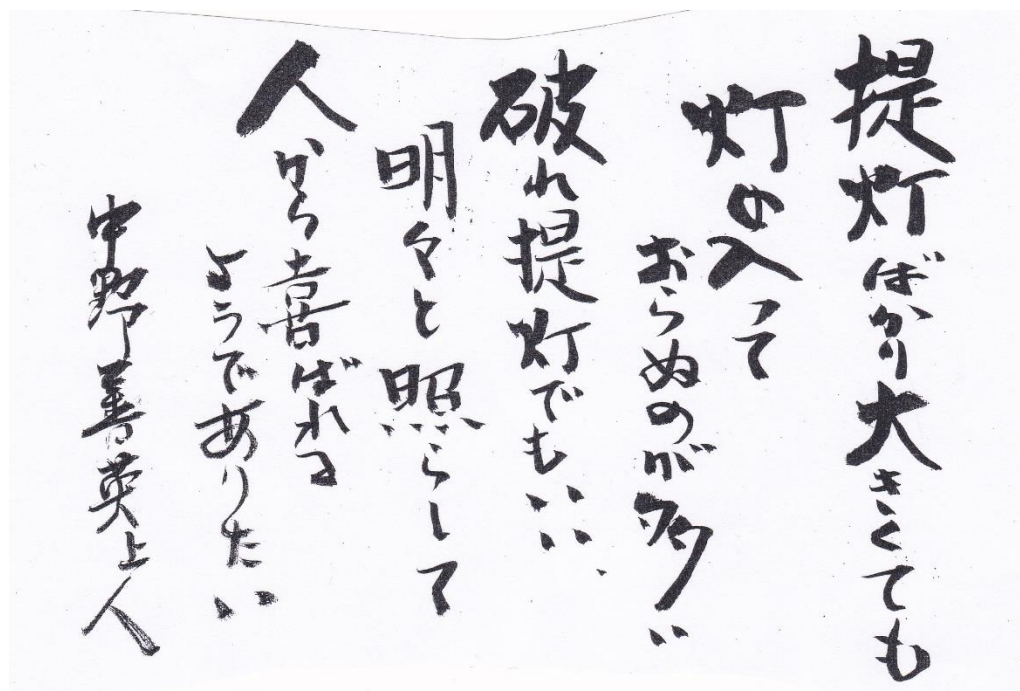
8月15日(日) 午前9時～初盆塔婆回向

8月24日(火) 午後6時に本堂にお参り下さい。



本堂と地藏堂にそれぞれ1000円を志納お願いします。

※初盆精霊灯籠をおまつりされた方は、24日午前中までに慶蔵院に届けて下さい。夜の初盆精霊送りに浄焚させていただきます。



横井久美子さんのアイルランドツアーでアラン島に渡った時のことである。ゴツゴツした岩肌の岸壁に海藻をばら撒き、ハンマーで岩を砕き。そこにジャガイモを植えて栽培し、命を紡いできた人々の生活を身近に感ずることができた。

この時から亡くなるまで続いたアイルランドツアーには前史があった。

「四〇代の一時期、燃え尽きて、枯れ木のようになった。もうだれからも必要とされない人間になったと苦しんだ」横井さんは自分の殻の中に閉じこもってしまったのだ。

しかし横井さんはアイルランドの一人旅を通して再生した。「バレン高原で、岩のすきまに咲く小さな野の花を見た。固い岩盤に細い根を張り、懸命に水を吸いとり、太陽に向かってけなげに花を結んでいた。どんな草花も水と太陽なくしては生きていけない。人間も同じ。生きる力は、殻の中ではみつからない。」

こうして再生した横井さんは、自分の殻を突き破って、日本でも世界でも、限らないたくさんの人々との出会いを積み重ねていくことになる。この横井さんがいてくれて、私たちはベトナムで、ネパールで、新しい足元からの挑戦を重ねることができたのだ。

「人はいくつになってもよみがうり、そこから新たな人生がはじまる」と語った横井久美子は、この言葉どおり、私たちの活動を通して「よみがえり」、私たちの心に《灯り》を点し、私たちの「新たな人生」を明々と照らしてくれると信じている。「…よみがえれ我が台地、ふたたびこの手に」と横井久美子はアイルランドで歌っていた。